

令和5年度 第3回駒ヶ根市自治組織の在り方検討会 会議録

日時：令和6年3月14日（木）19時～20時30分

場所：駒ヶ根市役所南庁舎大会議室

出席者：委員24名、事務局5名、傍聴3名

1 開会

岡田副座長 皆様こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから第3回自治会組織のあり方検討会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

2 座長あいさつ

岡田副座長 森岡座長さんよりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

森岡座長

皆さんこんばんは。

本日の検討会よろしくお願いいたします。

前回の検討会では白戸先生より講演をいただきました。先生の体験合わせて時代背景を含めた形でわかりやすくお話をいただきました。

ということで、私達もちょっと気が楽な感じで議論が進められるのかなというふうに思いました。

本当に先生ありがとうございました。

それではちょっと座った形でお話させていただきます。

本日の検討事項につきましては、グループワークに入ることです。

テーマ等々内容については、また後で事務局の方からお話をさせていただくことになっております。

今回のグループワークが活発で前向きな議論となりますよう皆様の積極的なご参加をよろしくお願いいたしますとともに、少し肩の力を抜いた形で和やかに進めていただければありがたいということでもあります。どうぞよろしくお願いいたします。

3 検討事項

森岡座長

それでは3の検討事項の方へ入りたいと思います。

それでは事務局よりグループワークについての説明をお願いします。

(1) グループワークについて説明

<事務局よりグループワークの説明>

(1) グループワークについて説明 **【5分】**

グループ分け、役割分担 **次第裏面名簿**

(2) グループワーク 会場内 A～Dグループに分かれる

<テーマ>

○第2回会議 講演会の感想 練習も含めこのテーマとしている

資料白戸先生の講演会から考えるあり方検討会の整理（事務局作成のイメージ図）

次回以降の論点を整理するため、委員の皆様の問題意識を共有し合う。

（第4回検討会も同じテーマでグループワークを行う予定）

<グループワークの進め方>【50分間】 <目安の時間>

①自己紹介 一人1分以内 **【8分】** 19:10-19:18

②役割決め 進行役、書記、タイムキーパー **【2分】** 19:18-19:02

③グループワーク **【30分】** 19:20-19:50

○出された意見を付箋に書いて模造紙に貼っていく。

○何回か繰り返す。

○関連する付箋をグループ分けし、見出しを付けていく

④まとめ **【10分】** 19:50-20:00

○発表のため模造紙に書き出す

(3) 発表・記録 各グループ5分 **【20分】** 20:00-20:20

※運営は基本的に委員が行う。事務局の議論には参加せずに運営を補助する。

森岡座長

白戸先生から何か補足がありましたら、お願いします。

白戸アドバイザー

皆さんこんばんは。

大した補足ではないですが、いろいろ長い長い議論があると思いますので、今日はあまり申し上げません。例えば、今回のまとめで立派なことを言うのではなくて、自

由に思ったことを言っていただいて、その中から、第1回も含めて次回ぐらいにまとめていくような感じのイメージでいただければ良いと思います。まずは自分の思っていることをそれぞれ言っていただくのが今回の趣旨でありますので、そんな感じで気楽にやっていただければよいと思います。以上です。

森岡座長

はい、ありがとうございました。

それではグループワークが50分ということで、今7時6分です。50分とって、ちょうど8時からまた同会場で全体会の方に入りたいと思います。その後でグループの結果発表をお願いしたいと思いますので、タイムキーパーになられてる方は時間の方確認をしながら進めていただきたいと思います。

それでは会場の場所はよろしいでしょうか？それぞれの会場にわかれてグループワークを進めていただければと思います。会場に移動してください。お願いします

(2) グループワーク 19:07~20:00

(3) 発表記録 各グループ5分

森岡座長

お話の途中かと思いますが、8時を過ぎましたので、これから全体会を再開したいと思います。

場所は今座っておられる場所での発表ということで、担当者の方は前へ出てきていただいてよろしくをお願いします。

事務局は時間を計ってください。

それではグループAの発表からお願いいたします。

グループA

発表 金村委員

Aグループはまだ全体の議題じゃないですが、隣組の役割って何だろうっていうところから意見を出し合いました。いくつかにわかれたんですけども、防災の面では、隣組に入っていない方がどうするのか、とか、あの人どこにいるんだろう、孤立してしまう方がいたりする。隣組に入らないこと孤立する方もいるだろうということが出ました。また、明確な避難訓練がされていないというのは、自治会とか学校などで行われているのですが、全体が同じ意識で行われてないので、私も今回このお話で初めて

知りましたが、災害が起こったときに体育館が避難所として開くのは2日後ぐらいになるというお話をお聞きしました。知らなかったので、やっぱりそういう一緒の認識がないと、最初に体育館に人が流れ込んだりすることもあるのではないかと感じました。

また、役員・組織という項目ですが、やっぱり隣組によって年齢構成が偏っていたりとか高齢化が進んでいる地域もあります。他の地域から来た方の意見というのはとても貴重ですが、意見が出せない雰囲気があるところもあるというようなお話もありました。

「生活、ゴミ、環境問題」でも、農業集落排水の集金とか、ゴミの問題についても出ました。

「子育て」では、核家族化がすすんでいます、昔は地域で子育て地域で行っているという事が多かったと思います。今私自身も、子育て世代として参加していますが、地域の方、近所の方、みんなにかわいがってもらって、育ってきたという気持ちがあります。今は、すごく若い世代の方は特に、お隣のうちの方もあまり詳しく知らないし、隣組にも入らない方も多いので、地域で子育てができるのかなっていうところをお話しました。

隣組の役割とは何だろうという事を話していた中で、自治組織の現在の目的は何になるのかという事を話していかなければいけないという話に最後になりました。

「これからは」という項目ですが、例えば、このマンパワーに頼るしかないということで、やはり、勢いのある方が進めていってくれたりすることもあるという事と、あと回覧板のデジタル化はできないかという事もあると思います。やっぱり、デジタル化をよく思わない方もいるようで、あと区長の仕事をNPO法人さんに委託するという方法もあるのではないかという意見も出ました。

森岡座長

はい、ありがとうございました。質疑は後でまとめてということにさせていただきます。それでは続いてBグループの方、お願いいたします。

グループB

発表 坂本委員

それではB班です。5人いろいろな立場の方がいらっしゃいました。

たくさん出たのですけれど、大きく三つにまとめました。

一番大きな多くの意見があったという事で、一つは自治組織に入るメリットです。

通常はメリットがよくわからないのだけれども、困ったときとか災害があったとき、火事になったときとか、そういうときには非常にありがたいと感じることができます。例えば、町の中で火事がありましたけれど、消防団の皆さんが、しっかり活動していました。消防署は火が鎮火すると帰ってしまうけれど、消防団の方は最後の最後まで残火処理をするということがあります。こんなに活動しているのに、やっていることがなかなか分かりづらい。そういうことをもっと知ってもらうようなことは大事だといくことです。

しかし、困ったときにわかるけど通常はメリットがよく分からないというような意見がありました。それから、困ったときのこと。自治組織のためには、日頃の付き合いが大切だと。そうしないと困ったときも、何かあったてもすぐ対応できないということがあります。ですから、メリットを生み、見えるように、何かあったときにしか分からないようなことではなく、常に普段のそういう付き合いで、みんなが何かあったら支え合うのだということが大事だと。

それから負担の見直しで、お金も集めて、それから区費とか自治会費とかあるけれども、そういうのはどう使われているか。あるいは使い道が分かりづらいとか、いろいろ決算報告はしているのだけれども、具体的にどういう所に金を使ってるとか。あるいは地域の集会所の運営もいろいろあるけれども、そういうところで使ってる姿がよく見えないというか。これは移住してきた方の意見ですけれども、そういうことが見えるようになれば、お金も出してもいいということなんです。けれども、そういうことですそれから、区によって、負担金などはみんな違うのだけれど、同じ市民ならどの区に入っても、入会費とか区費などが、同じ程度にして、こっちでいろいろ聞いてみたらこっちの方が安いのに、お隣の区に入ると高いということもある。入ればまだいいのですが、入らない場合もはあるので、そういうように同じ市民なら区費や負担を一緒にすることが大事ではないかということです。

そのお金のことで、自治組織の出費の負担感、会計の透明性とか、それから区に入ったときに費用の透明性とかそういうお金の集め方、使い方をもっとわかるようにということと、皆さんにこの活動を知らせる、知ってもらうことが大事だと。いろんな自治組織の役員の皆さんが一生懸命やってるんだけど、後任が見つからなくなるの

で、やってるとは言いにくいということです。ですけど一緒にやってるんだってことを分かってもらうことがなければ、活性化はできないというような意見が出ました。他にもたくさんありますけど、このくらいでお願いします。

森岡座長

ありがとうございました。

続きましてCグループの方をお願いします。

グループC

発表 木下委員

Cグループではちょっと議論が白熱して、まとめるところがちょっと難しかったのですが、とりあえず何とかまとめてみます。

まず、各々の地区ないし隣の地区を見たときに、何かいいところ、ちょっといいところ、みんなで話し合おうということで、例えば、割と農村地帯の方は、自治会の加入率が非常に高く、多分100%近いところもあるかもしれません。

そういったところは、地域としてのまとまりが良いという特徴があって、そういったところで暮らしていると、いろいろと子育てとか介護の面で安心感があります。あるいは治安の良さというのもあるのではないかと思います。それから、地域がまとまりがあるということもあり、自治会という組織を通じて横のつながりができるので、やはり地域住民の間のコミュニケーションも良くて、結構フレンドリーな雰囲気を味わえるところがあります。あるいは、自治会とは別に自主防災組織が組織化されている地区もあって、そういったところは自治会と別に、高い加入率で運営されているところもあるという話がありました。

それから、現状どうなっているだろうというところですが、まず、現状、自治組織、自治会に入っていない人たちは、どんな感じで考えてるんだろうかということを考えてみます。

そもそも自治会に入るメリットが感じられてないから入ってないんじゃないかということです。あるいは、入らなくても困らないとか、例えばお勤めの方とか大学生とかアパートに住んでる方など、そういう考えなのではないかということです。

あるいは、戸建てで貸家の方は入らなくてもいい地域もあって、最低限のゴミ出しとかができれば、地域で暮らす上で特に困らないので、入る必要性も感じないのではないか。

一方で、入ってる人たちの現状としては、役員のなり手が少ないとか、自治組合の若返りが進んでない。長老の人がずっと居座ってる。世代交代が進んでいない。

自治会が男性だけで運営されているとか。集会所の維持管理費が将来どうなっちゃうんだろうとか。そういうような問題意識やお金のことも議論が出ました。どこかの区だと入るのに、そもそも15万円かかるとか、そういうふうに入会の条件が違うというところを、どうしたらいいんだろうという所です。

やはり情報公開が今すごく不足してるのではないかと思います。

そもそも、その制度の説明を受ける場所がありません。例えば、引っ越す前の人たちですね、移住先を探してる人たちとかは、多分どこに住んだらどういう条件があるとか、どういう区のお仕事があるのかというのがわかりません。そういう情報がどんどん提供された方がいいと思います。

そこにはもちろんお金の問題とか、お金の説明とかルールの説明とか、そういった入るメリット入るデメリット、あるいは入らないメリット、入りらないデメリットとか、そういった情報をまとめて、どの区を見ても同じような所がわかるようになっていけばいいねということでした。

例えば伊那市だと、そういったものが全てホームページに公開されてるので、見やすくなっています。移住を先考えている人たちには、そういったところの方が、やっぱり情報のアクセスが良くて、ひょっとしてそちらに行ってしまうなんていう話もしました。こういう話で終わりました。

森岡座長

はい、ありがとうございますそれでは最後にDグループの方お願いいたします。

グループD

発表 菅沼委員

Dグループの発表をします

今日はまとまりのない話でいいということだったので、結論まではいいませんけど、自治会の必要性をまず、何かなということを考えました。

先ほど出ましたけど災害のときの助け合い、これは大事なことはないかなと思います。高齢化や、それから単身世帯から老々夫婦世帯が、極端に増えてしまって、ゴミ出しもできない人もいるといいます。そういう事も、放っておいたら、ゴミ屋敷になってしまうので、やっぱりそれを助け合う気持ちがなければ、今後やっていけないんじゃないかなということです。こういう隣近所の、特に隣組は大事じゃないかなという意見でした。

それについての課題ですけれども、やはり、入会金が高いとか、役員の負担が大きいかとか皆さんと同じような話です。いろんな課題があってこれを解決するためにどうしたらいいのか、というところが、今後の課題かなというふうに思います。

それと外的要因としては、やはり先ほど言いましたように、高齢化の進行、それからここに住んでいても、職場が夫婦とも市内で、昼間いないという方がだんだん増えている。ということで、当事者意識というのは薄れてると感じます。

必要性はやはり伝えないと、それから高齢化に対する考え方じゃないかなというふうに私達のグループではそういう結論を出しておりました。

(4) 質疑・講評・アドバイス

森岡座長

ありがとうございました。四つのグループのご意見いただきました。全体通しまして何か聞きたいところがあればお出しいただきたいと思います。いかがでしょうか？

いろいろご意見があって皆さんの頭の中もちょっと整理できてないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか？

庄村委員

細かい部分になってしまいますが、Aグループの発表で最後に、区長の仕事を外部委託するという案が出ていたと思いますが、興味深いと思います。詳細をお聞きしたいと思い質問させていただきます。

森岡座長

もしグループの方で返答できるようであれば、

伊藤委員

詳細というか、ざっくりしたイメージです。今、区長さんはなかなか手がないという中で、仕事の負担が非常に大きいとお聞きして、もし一括しておまかせできるようなNPO法人のようなところがあれば、今区によって、会費もそれからやる内容も全然違うという事なので、共通するようなお仕事というのは、そういったようなところはもうお任せできるようなところがあります。

森岡座長

非常に斬新なアイデアで、また少しずつ考えられるところあるのかと思いながらも、区長経験者だと、ちょっと、というところもあったりして、皆さんでまた深めていただければありがたいと思います。

他にいかがでしょうか？時間がまもなく25分になりますので、白戸先生の方から講評をお願いいたします。

白戸アドバイザー

それでは短く。ご苦労さまでした。まずは、ずいぶん楽しくお話をしていただいたグループがあったかと思います。こんな感じでできたら出てくるのも苦じゃなくなると思います。こんな感じで続けていきたいと思います。

今日は入口なので、多分まとめろと言われたので結構まとめていただいたのですが、まだまだ言い足りない部分もたくさんあるので。次回はもう少し広げていただいたり深めていただいたり、雑談にプラスアルファぐらいの雰囲気やっていただければと思いました。

感じたことを一つだけ言うと、大体皆さん話していると目的というかね、もう何のためにあるんだみたいな話があって、それから自治組織を現状はこうなってるから構造から変えなければいけないみたいな話があって、その中に例えば人材の話とか情報公開の話が出てくるような整理だと思うんですが、次回話すときにはですね、例えば「介護」だったり「子育て」と、今一般論として皆さん言われてました。具体的にこんな問題があって、こういうふうになっていて、それをどうしたいのかというのが先にあった方がいいと思います。そんなときに自治会に何ができるのかという順番で考えます。さっきの外部委託という話もありましたが、外部委託というと、あの刺激が強いんですけども、考えてみたら、防災や自主防災組織のところで、分担してという

形でやってるような形で、従ってあり得るわけです。そこで初めてどうあるべきか、自治会どうあるべきかという事をやっていく。その後、介護だったり育児だったり防災だったりという、テーマについて「こうありたいな」というのが前提にないと、その組織のあり方をいくら議論しても、修練していかないと思います。

場合によっては各区ごとに多少違って来る。テーマが違ってくれば、形態だって違った方がいいかもしれない。だからそういう意味では、話し合いの中で「介護」というけれど、具体的にどんな問題があって、それをどうしたらいいのかというのが先ずあって、その中で自治会はどうあるべきかという順番で話しをしないといけないと思います。いきなり自治会どうあるべきだという目的からだ入ると、先ほどありましたけれど、目的が見えない中で、形態だけ話してもなかなか話がつまらないと思う。少しその辺も広げていただけたらいいと思います。

あと、情報公開の話も結構出てきたので、これはすごく面白いっていうか大事なところだと思います。ここも少しお話を深めていただければいいです。

一部出てましたが人材ですね。大体こういうことをやると人がいないという話になるんです。人がいないんだけど、皆さんもちょっと1回考えていただければいいと思います。人がいないんじゃないですよ。いるんだけど、埋もれてたり、いじけていたり、外されたりしてる場合は多いです。

ある町会でですねこういう話し合いをやったときに、老人クラブの会長が何か話してたらね、持ち時間全体で40分の中で半分使ってね、うわーって話してしまったんです。そうしたら、みんな引いちゃったんですね。最近の子供が駄目なのは父ちゃん母ちゃんのせいで、父ちゃん母ちゃんが駄目なのはジジババのせいで、ジジババがいけなきゃ学校の先生がいけない、校長もいけない。最後は町長がいけなくなるね。それで最後に県知事がわるいといって、首相がわるいとかまで行ったらみんな引いちゃったんですね。

次の町会であの人は呼ぶのをやめようって、私の家に公民館とかの人が言いに来たんです。ところがその人を外すとね、120%力を持って足を引っ張るんですよ。ですので、次の会にも呼んでくださいという話をしました。次回の時、僕も考えて、姑息に考えてですね、そのおじいさんの話が最後になるように、出発をその隣にうちの学生に相談しておいて、「今日は若い人からいきますか。反対まわりに行きましょう」って時間が余るようにしました。そうしたら、20分を残して、その人にまた回って行っちゃうんですね。

ところがね、そうしたら、そのおじいさんがニコニコしてるんですよ。なんでニコニコしてるかという、話した中に、私は移住してきたんだけど、この地域の伝統的なおやつの作り方を習ってみたいとか、子供が学校から帰るときに面倒見てくれる人がいないとか、虫捕りを教えて欲しいとか、農業体験を教えてほしいという話をしました。そうしたら、そのおじいさんが前回と変わって、笑って全部できるというんです。老人クラブでその1ヶ月後にその地区に子供見守り隊ができて、学校の行き帰りの見守りが自主的に始まったんですね。

そこはね、なぜその地区にしたか。あそこの地区は駄目だってみんな言ったんです。行政のいけないところでモデル地区という、一番いいところから選ぶんですよ。いいところから選ぶと、あそこはいいからできるんだってなります。だから、一番いけないところへ行ってくださいとお願いしました。その地区へ行ってみると、やっぱりそういう人がいたんですよ。そこが立ち上げたら隣の地区ですぐ1ヶ月後に同じ見守り隊が出ました。そうやって広がっていきます。

だから、こういう人を見つけていくというのが、発想の転換が必要だと思います。そういう自分たちの地域にすごく宝物、人や、いろんな資源も含めてあるのだけれど、見ないふりをしている。見ないふりをして、人がいないと言っている部分が結構あります。そのときに、こういう人がメンバーに入るというのが、この自治会の組織にとっては大事なところですよ。そんなこともまた、少しお話を深めていただけないかと思いました。

以上です。

森岡座長

ありがとうございました。

それでは今日の質疑等につきましては以上とさせていただきます。他にご意見ご質問等ある方は、次回まで事務局の方へお寄せいただくことでお願いいたします。

4. その他

森岡座長

それでは4番のその他ということで事務局からお願いいたします。

<事務局より次回の予定>

4月24日水曜日 19時から本庁市役所大会議室

5. 閉会

岡田副座長

それでは皆様お疲れ様でした。以上で、第3回駒ヶ根市自治組織のあり方検討会を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

お気をつけてお帰りくださいませ。